

令和元年度 青少年育成湯沢市民大会

十一月十九日(火) 皆瀬中学校体育館において、湯沢市教育委員会共催、湯沢秋田ライオンズクラブ、雄勝小野小町ライオンズクラブ、稲川ライオンズクラブの協賛により、令和元年度青少年育成湯沢市民大会が開催された。

当日は、来賓や皆瀬中学校全校生徒・職員、市民会議会員、一般市民など多くの聴衆が見守る中、湯沢市雄勝郡内の各中学校の代表が、堂々と意見発表を行った。

意見発表



祖父の手に学ぶ
湯沢南中学校 三年
高橋 里奈

私の祖父の手。皮がとても厚く、ごつごつして固い。血管が浮き上がって筋張っており、黒く、大きく、温かい。その手を見ると誰もが「大変な仕事を最後まで投げ出さずに一生懸命に頑張った人なのだ。」と思うだろう。

私の家は、代々受け継がれてきた農家で、米、野菜、葉タバコの栽培を家族みんなで行ってた。穏やかに誰にでも優しい七十五歳の祖父は、鍬を握って土を耕し、トラクターの

ハンドルを握り作物の種を撒き、肥料を施して家族のために働いてきた。今も気がつくと、一日中外にいる。働きの者の自慢の祖父だ。

若い頃は家族を養うため、東京や大阪に出稼ぎに行っていたこともあった。鍬からタンクローリーのハンドル、自動車部品を作る機械に替えて慣れない都会で日々働くことは、どんなに辛く大変だったことか。工場の機械に指を挟まれ、左手の三本の指を切断しそうになったこともあり、今もその傷痕は深く残っている。命からがらの目に遭っても、故郷に帰りたいとも、家族の生活を支えたい、子供達の喜ぶ姿が見たい、それだけをひたすら考え、何十年も生きてきた私の祖父。誰も勲章を贈ってはいくれないが、ごつごつしていて黒く大きく温かい手、三本の指の傷痕は、祖父の誠実な生き方や考え方を象徴している何よりの勲章だと私は思う。

私も、祖父のように真の強さを持った人間になりたい。そして誰よりも温かい手の持ち主になりたい。



女子だから？
皆瀬中学校 三年
田牧愛利華

最後の郡市総体、私はたくさんの人に支えられているという実感をもって打席に立つことができた。決勝戦一対三で敗れ、整列した時、十五人の部員は私のことを「女子一人」

とは思っていなかったはずだ。応援席の親も、友だちも、先生方も、野球部員の「愛梨華」が頑張ったなと思ってくれたはずだ。

私は小学校三年生で野球を始めた。野球をやっていた兄の影響で野球部に入ることは自然の事だった。同じ学年の男子六人と入部して六年間、大会や練習試合に行くと、「女子一人なんてすごいね」「大変じゃない」とよく言われた。

私には、チームメイトがいたから今の自分がいる。「このチームメイトで野球ができて良かった。」という思い出だけが残っている。

私は皆瀬中学校で生徒会長をしている。全校生徒五十二名で、学年や男女の差別なく、全員が仲良く生活している。学校生活でも、「男子だから」とか「女子だから」などという考えはない。立候補する時も「女子だからできない」という思いは一つもなかった。

私は仲間にも恵まれ、自分らしく過ごしてこれた。「女子だから」「女子なのに」という考えは、私にはない。女子だから？いいえ仲間だからだ。



言葉の力
湯沢北中学校 三年
渡部 杏美

中学生になってから、私の周りの友達言葉遣いが悪くなってきているように感じる。「言葉」というものは、相手とコミュニケーションを

とるために絶対に欠かせない。しかし、言葉の使い方間違えたらそれが「刃物」のように一変してしまう。友達が、「えー何それ。うざ。」などと悪い言葉を口にした瞬間、心が痛む。友達が何気なく使っている言葉によって心が痛むことがよくある。言葉は人を傷つける。

いじめによって中学生が自殺した。長期間自分の周りの人に毎日言葉の刃物で心に傷をつけられていた。そのことを誰にも相談できずに自らの命を絶ってしまった。

近くにいればいるほど深く傷つきやすい。私が友だちの言葉に心が痛むのも、親しい友達だからなのかもしれない。

私は相手とコミュニケーションをとる時には「もし、自分が相手にそのようなことを言われたらどうだろう」と考えながら言葉を選択したい。相手を幸せな気分にしてあげられるような言葉を使っていきたい。

言葉の持つ力は、人を傷つけるだけでなく幸せにもできる。「友達は自分の鏡」友だちを見れば自分がどんな風に接しているのかが分かる。友達に優しくしてほしいなら自分から優しくしたいと思う。



私たちのいじめ防止宣言
稲川中学校 三年
杏澤 綸

私のクラスで「いじめについて考える三年二組サミット」を開催。四

つのブロックに分かれ話し合った。一人でも嫌だと思つた時、いじめになる。私たちはみんな違つた人間。一人一人感じ方も違う。自分にそんなつもりがなくても相手にとつても嫌だと感じることもある。だから本人が気づけていなかったら周りがフォローしてあげれば良い。

私たちが一人一人がお互いの個性を認め合い、尊敬しあうことが大切だ。話し合いで学級の行動の指針を決め、みんな得意いじめ防止に努めている。

- 一 相手の嫌がることはしません
- 二 特に言葉遣いに気をつけます
- 三 誰にでも平等に接します
- 四 色々な人との係わりを大切に生活します

みんながいじめ防止を毎日意識して生活していくことで、それが大きな力になる。家族や友達、先生方と周囲の人たちを大切にし、今、自分ができることをしていきたい。

一人一人がいじめについて考え、いじめ防止に向けて実行することで、今日よりいじめが減り、笑顔が増える明日がきつとくると思う。



こぶしに生きる
東成瀬中学校 一年
谷藤 翔太

家族が関わっていた「成瀬仙人太鼓」。幼い僕も練習に付いていき、芸事にふれることの多い環境で育つた。そんな中、興味を持ったのが三味線。さつそく三味線教室に通つた

が、先生に「唄がわからないと三味線のよい演奏ができない。」と言われ、始めたのが民謡だった。習い始めると、民謡の楽しさを感じるようになった。盆踊りの時に謡われる激しい唄、悲しい唄、お祝いの席でのしつとりとした唄、一曲一曲にその時の思いが感じられることが魅力である。

習い始めて二年目から大会に出場したり、人前で披露したりするようになった。日本武道館での「小学生グランプリ大会」、小学生日本一の座を獲得。多くの人に喜んでいただけたり、様々なことに挑戦したりすること、をいつも心がけている。それで得た経験は、民謡だけでなく、大切なことを教えてくれた。

僕には将来の夢がある。それは農家になること。民謡には「作業唄」がある。農業に係わり、実際に農作物を育てることで、唄にさらに思いをのせることができると考えている。そうすることで、もつと幅広い民謡を唄えるように僕はなりたい。

僕を成長させてくれる民謡。どんなときも民謡は僕の生活と共にある。これからもたくさんの方に僕の思いを込めた歌声を届けていきたいと心に決めている。



僕と妹
雄勝中学校 二年
今仲 捺清斗

妹は言語に少し問題を抱え、幼児教室に通い、言葉の練習をしている。僕の真似ばかりする妹、僕のことをすぐ壊す妹、わがままばかりいう妹、僕を困らせてばかりの妹、そんな妹だが、僕にとつて愛おしく、かけがえの無い存在である。

しかし、残念なことに妹と同じ年の子が、親による虐待で亡くなつてしまふという事件があった。親による虐待の事件が度々報じられている。それをみる度に言葉にならないほどの痛みが僕の心を締め付ける。

虐待は許されることではない。しかし、親が一人で子育てに思い悩み、疲れ切つてしまふ状況を改善しなければこの問題は解決しない。

僕は妹に毎日話しかけ、言葉をたくさん教えている。母が家事で忙しい時は妹の面倒を見る。僕は妹がケラケラと笑う顔、喜んでくれる顔が大好きだ。だから自分のできる限りのおもしろいことをして妹を笑わせる。それが妹と母にできる僕なりのサポートである。

虐待がなくなることから望んでいる。虐待を無くす方法は身近にある。自分のためだけにではなく、困っている人の気持ちに気付き、寄り添う人間になりたい。すこしの思いやりから笑顔が生まれる。

妹はまだ二歳。僕は兄としてこれからも妹を守っていく。



「居場所」のある町
羽後中学校 三年
仙道 泰貴

綺麗に楽し気に楽々作る弟の切り絵、家族に玉子焼きを作ってくれる弟。でも弟は大きな音が苦手である。耳が敏感なのだと思う。小学校三年生の時から学校に行くことができなかった。でも毎日「そよ風教室」という適応指導教室に通っている。

「ワクワクサタデー」。土曜日に体育館が開放され、誰でも使つていい。広い体育館でボールを使つて遊ぶ。弟にとつても、僕にとつてもとても気持ちよく、楽しい時間である。こういうシステムがあつて本当に良かったと僕は実感した。

最近、家に引きこもつていた人が大きな事件を起こす。僕はそれを聞く度に家以外に安心して居ることのできる「居場所」がもつとたくさんあつたらいいのと思う。

僕は将来、町役場に就職し、行政に関わる仕事をしたい。そして、自分の町を「居場所のある町」にしていきたい。僕の町は少子高齢化が進んで、人口が減少している。町に人を引きつける魅力がなければならぬ。「居場所のある町」はいいアイディアだと思ふ。

僕の弟のような人が大人になつても、得意なことを存分に発揮で

きる場所が社会の中にたくさん用意されていたらどんなにいいだろうか。僕が社会に出るまで七年の時間がある。その間しっかりと勉強し、自分の夢を実現させられる力を蓄えたい。そして、誰にでも「居場所のある町」を作りたい。



私たちのミッション
山田中学校 三年 高橋 侑士

山田中学校は昨年度全校生徒でYAMACHUコーポレーションという企業学習での模擬会社を立ち上げた。山田の魅力を生かした商品を開発し、そのアイデアを地元の企業に買ってもらい収益を上げています。昨年度の売り上げは十万円を超えた。今年度は新しい商品開発が功を奏し、現段階で昨年度の一・五倍の収益を上げています。

販売商品は、ホテルや飲食店との業務提携による、地元の野菜や味噌をふんだんに使用し、ふるさと感を極めた「2018季節のYAMACHUピビンパ井」、カフェのカフェオレベースを使用した「YAMACHUカフェ大福BIGHAPPY」、カレーの中に麴屋の味噌、トマト味噌を使用し、ライスにもトマトを混ぜたYAMACHU勝ち飯キーマカレー」。

今年度は軒先シェアリングという湯沢市の事業を活用し、カフェラウンジ17を借りて、キーマカレー、まじゅりゅう、大福を提供する中学生レ

ストラランを開店させた。十月、地域共生社会推進全国サミット湯沢大会に出店、YAMACHUコーポレーションの活動プレゼンテーションをした。

YAMACHUコーポレーションは自分たちのメッセージを込めた新たな商品を生み出し、さらにどんなことができるかを考え、行動を起こしていく。自分たちの手でふるさとを盛り上げ元氣な街にする。これがYAMACHUコーポレーションのミッションである。



活動内容

青少年育成湯沢市民会議

六月 総会
十一月 青少年育成湯沢市民大会
十二月 会報「青少年ゆざわ」発行
県南地区青少年育成運動
活性化研修会
青少年健全育成意識啓発活動
環境浄化運動

通年 会員を募集中です。最寄りの会員や事務局へお気軽にご連絡ください。

湯沢支部

- ・ゆざわ青少年守り隊への参画
- ・標語看板の製作及び設置
- ・他団体との交流
- ・その他青少年健全育成に関する活動



雄勝支部

- ・支部総会及び研修会
- ・子ども会世話人交流会
- ・子ども会ドッジボール交流会
- ・子ども会活動助成金交付



稲川・皆瀬支部

- ・交通事故、水難事故防止のためPTA並びに親子会と協同による危険箇所への赤い「キケン」旗設置



編集後記

皆瀬中学校で開催された青少年育成湯沢市民大会、オープニングに皆瀬中学校全校生徒でソーラン節を元気に踊り開会。

各中学校を代表して、祖父や妹など家族から学び、生きる力を語り、学校生活の体験から語る将来像、素晴らしい意見発表。

最後に皆瀬の四季を歌った皆瀬賛歌を全校生徒が合唱、湯沢の未来に明かりがさす。青少年のふるさとに対する思いが強く感じられた。

ふるさとの魅力とらえて語りたる
湯沢の郷に光を灯す
(戸部尚武)

◆青少年ゆざわ編集委員会

- 委員長 川村 忠司
副委員長 滝 昭吉
委員 戸部 尚武
委員 新山 司郎
委員 高嶋江美子

◆発行

青少年育成湯沢市民会議

【事務局】

湯沢市佐竹町一番一号
湯沢市教育委員会生涯学習課

TEL 七三二一六三